

『生態系の保全といぐね（居久根）の役割』

～いぐねの学校を知ろう～

今回の未来づくり（ESD=持続発展教育）では、被災した仙台平野沿岸地域の生態系について考えます。この地域には多くのいぐねという人工の里山が多く分布しています。このいぐねが今回の震災でどのような被害を受けたか、生態系にとってどのような役割を持っているかを考えます。またこのいぐねを活用した体験学習プログラムを楽しみ、さらには生態系復元の作業を行う予定です。被災地域の現状を考える上でも、多くの方の参加をお待ちします。

7月31日（日）9:30～15:00 名取市大曲・洞口家住宅

9:00 集合	（電車での参加者は、9:00～9:10 に名取駅東口集合・迎いの車があります。）
① 9:30～10:45	開校式 校長あいさつ・ 報告：いぐねの役割といぐねの学校
② 10:45～12:00	いぐねの暮らし体験プログラム （火お越し・むしかまど・ずんだ・きなこ・もちつき）
③ 12:00～13:00	学校給食 もち+おにぎり+旬の夏野菜汁++すいか割り
④ 13:00～14:30	生態系の復元作業+除塩作物（ひまわり）の定植
⑤ 14:30～	閉校式
★参加費 300円	

いぐねの田んぼ Before & After



2つの写真を見比べてください。左の写真は、いぐね(屋敷林)とその周辺の田んぼです。瓦礫を取り除いて植物を使った除塩を行ない、来年の米づくり再開を願っています。

主催：宮城教育大学小金澤研究室・仙台いぐね研究会

仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会

（連絡先 090-1492-9602）